

令和2年度(2020年度)用

小学校国語科用

「新しい国語」 年間指導計画作成資料 【1年】

令和2年(2020年)7月16日版

※単元ごとの配當時数、主な学習活動、評価規準などは、今後変更になる可能性があります。ご了承ください。

東京書籍

「新しい国語」(第1学年)年間指導計画

■「評価の観点及びその趣旨」,「学年別の評価の観点の趣旨」の作成について

単元の指導計画・評価計画の作成に当たっては、各学校の実態に応じて目標に準拠した評価を行うために、学習指導要領に示された教科の目標を踏まえた「評価の観点及びその趣旨」と、学年の目標を踏まえた「学年別の観点の趣旨」を作成します。

なお「主体的に学習に取り組む態度」の観点は、教科および学年の目標の(3)のうち、観点別学習状況の評価を通じて見取る部分その内容として整理し、作成します。

小学校国語科の目標と「評価の観点及びその趣旨」

小学校学習指導要領 第2章 第1節 国語「第1 目標」

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)	(2)	(3)
日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。	言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

評価の観点及びその趣旨 <小学校 国語>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言葉がもつよさを認識しようとしているとともに、言語感覚を養い、言葉をよりよく使おうとしている。

第1学年及び第2学年の目標と「評価の観点の趣旨」

小学校学習指導要領 第2章 第1節 国語「第2 各学年の目標及び内容〔第1学年及び第2学年〕 1 目標」

(1)	(2)	(3)
日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。	言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

評価の観点の趣旨 <小学校 国語> 第1学年及び第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもっている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えをもったりしながら、言葉がもつよさを感じようとしているとともに、楽しんで読書をし、言葉をよりよく使おうとしている。

■評価規準

【知・技】…「知識・技能」の観点および学習指導要領との対応

【思・判・表】…「思考・判断・表現」の観点および学習指導要領との対応

【主】…「主体的に学習に取り組む態度」の観点

※◎は、重点指導事項に対応する評価規準を示す。

※学習指導要領との対応に示した記号は以下の通り。（「◇言語活動」においても同様）

〔知識及び技能〕(1)…言葉の特徴や使い方に関する事項 (2)…情報の扱い方に関する事項 (3)…我が国の言語文化に関する事項

〔思考力・表現力・判断力等〕A…話すこと・聞くこと B…書くこと C…読むこと

単元の指導計画・評価計画案

4月教材群	※児童の実態や学校生活の流れに合わせて、学習活動の一つ取り出したり、複数を組み合わせたりして、1回当たり5～15分程度で扱う。	
教材／想定される10の姿の例	●単元の目標／主な学習活動／評価規準(学習指導要領との対応)	他教材や他教科との合科的・関連的な指導のアイディア
<p>さあはじめよう 2時間(読2)／教：上表紙裏・P.1～7</p> <p>協同性 文字等への関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現</p>	<p>●言葉のリズムを楽しみながら、みんなといっしょに声を出すことができる。</p> <p>・教師の読み聞かせを聞き、言葉に合わせて体を動かす。</p> <p>・動作をつけながら、交互に言ったりみんなで声を揃えたりして言葉の掛け合いを楽しむ。</p> <p>【知・技】(1)イ(背筋を伸ばし、声を十分に出しながら話している)・ウ(言葉の響きやリズムなどに注意して音読している)【思・判・表】C(1)力(「読むこと」において、読んだ感想を共有している)【主】これまでの経験を生かしながら、積極的に言葉の響きなどに気をつけて音読し、楽しもうとしている。</p>	<p>・教室での学習の始まりで繰り返し扱い、学習のリズムを作る。</p>
<p>よろしくね 1時間(話聞1)／教：上 P.10・11</p> <p>自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 思考力の芽生え 言葉による伝え合い</p>	<p>●他者に関心を持ち、名前などを伝え合って、互いのことを知ることができる。</p> <p>・教師の自己紹介を聞く。名前を伝える話型を確かめ、名前の他に伝え合うことを決める。</p> <p>・いろいろな友達と自己紹介をし合って握手をする。</p> <p>【知・技】(1)才(身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っている)【思・判・表】A(1)ア(「話すこと・聞くこと」において、伝え合うために必要な事柄を選んでいる)・エ(「話すこと・聞くこと」において、集中して聞いている)【主】これまでの経験を生かしながら、積極的に伝え合うために必要なことを選び、自己紹介し合う活動を楽しもうとしている。</p>	<p>・図工の時間に描いた「好きなもの」の絵を見せて、自己紹介をする。</p> <p>・生活科の探検活動で、学校で働くいろいろな先生に会って自己紹介をする。</p>
<p>ひとつつながることば 2時間(話聞2)／教：上 P.12・13</p> <p>自立心 社会生活との関わり 思考力の芽生え 言葉による伝え合い</p>	<p>●人と関わるときに大切な言葉に気づき、使うことができる。</p> <p>・幼稚園などで、先生や友達、家族と話すときに使っていた挨拶などの言葉を発表する。</p> <p>・教科書の絵を見て必要な言葉を考え、これから学校生活で使いたい言葉を考える。</p> <p>【知・技】(1)才(身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っている)【思・判・表】A(1)ア(「話すこと・聞くこと」において、伝え合うために必要な事柄を選んでいる)【主】これまでの経験で感じたことや気づいたことを生かしながら、積極的に身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使って伝え合おうとしている。</p>	<p>・生活科の探検活動で、学校で働くいろいろな先生に会ったときに挨拶をする。</p> <p>・道徳の時間に、挨拶などについて、教室の約束作りをする。</p>
<p>こえをとどけよう 1時間(話聞1)／教：上 P.14・15</p> <p>自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 思考力の芽生え 言葉による伝え合い</p>	<p>●相手との距離などによって、必要な声の大きさが違うことに気づくことができる。</p> <p>・2人ずつ前に出て、それぞれ誰を呼ぶかを話し合い、決めた友達の名前を呼ぶ。他の児童は教室の反対側に座って聞き、名前を呼ぶ声が聞こえたら返事をして、握手をする。</p> <p>【知・技】(1)イ(姿勢や発声に注意して話している)【思・判・表】A(1)ウ(「話すこと・聞くこと」において、相手に届く声の大きさを考えて話している)【主】これまでの経験を生かしながら、積極的に、相手に応じて声の大きさを工夫し、友達に聞こえるように名前を呼ぼうとしている。</p>	<p>・「よろしくね」で知った友達の名前を呼ぶ。</p> <p>・生活科の探検活動で見つけたことについて、みんなの前で話す。</p>
<p>えんぴつをつかうときにたしかめよう 1時間(知技1)／教：上 P.16・17</p> <p>健康な心と体 自立心 思考力の芽生え 文字等への関心・感覚</p>	<p>●姿勢や鉛筆の持ち方、手の置き方を知り、鉛筆を使うことに関心をもつことができる。</p> <p>・教科書の写真を見て、姿勢や手の置き方を確かめる。</p> <p>・教科書の唱え歌に合わせて体を動かし、鉛筆の持ち方や姿勢を確かめる。</p> <p>【知・技】(1)ウ(平仮名を書いている)【主】これまでに経験して感じたことや気づいたことを生かしながら、積極的に、平仮名を書こうとしている。</p>	<p>・生活科の時間に、校庭で見つけたものの名前を書くときや、算数の時間に、数字を書くときに、姿勢のよさに着目させる。</p>
<p>かいてみよう 1時間(知技1)／教：上 P.18・19</p> <p>自立心 思考力の芽生え 文字等への関心・感覚</p>	<p>●簡単な平仮名6字を書き、文字や言葉への関心をもつことができる。</p> <p>・姿勢や鉛筆の持ち方などに気をつけて運筆練習をし、「つ」「く」「し」「へ」「い」「こ」を書く。</p> <p>・6字を組み合わせてできる言葉を探して書く。</p> <p>【知・技】(1)ウ(平仮名を読み、書いている)【主】これまでに経験したことや学習したことを生かしながら、積極的に、平仮名を読んだり書いたりしようとしている。</p>	<p>・生活科の探検活動で見つけたものの中から、「つ」「く」「し」「へ」「い」「こ」の付く言葉を探す。</p>
<p>あいうえおのうた 2時間(知技2)／教：上 P.20・21</p> <p>健康な心と体 自立心 思考力の芽生え 文字等への関心・感覚 豊かな感性と表現</p>	<p>●語のまとまりや口形に気をつけて音読することができる。</p> <p>・「あいうえおのうた」と教科書の挿絵をつないで様子を思い浮かべながら音読する。</p> <p>・教科書の写真やマークを参考に、「あ」「い」「う」「え」「お」の口形が異なることを確かめる。</p> <p>【知・技】(1)イ(姿勢や口形、発声や発音に注意して話している)・ウ(語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している)【主】これまでの学習や経験を生かしながら、進んで、姿勢や口形、発声や発音に注意して声を出し、楽しんで音読しようとしている。</p>	<p>・生活科の時間に、見つけたものがみんなに伝わるようにはっきりとした声で話す。</p> <p>・遠足で、「あいうえおのうた」をみんなで口ずさみながら歩く。</p>
<p>あいうえおのことばをあつめよう 3時間(知技3)／教：上 P.22・23</p> <p>自立心 思考力の芽生え 文字等への関心・感覚</p>	<p>●音節と文字との関係に気づき、「あ」「い」「う」「え」「お」の付く言葉を身の回りから集めることができる。</p> <p>・挿絵と文字や記号などを結び付けながら言葉を声に出し、文字と音節の対応を捉える。</p> <p>・教科書の挿絵のほかに、「あ」「い」「う」「え」「お」の付く言葉を集める。</p> <p>【知・技】(1)イ(音節と文字との関係に気づいている)・ウ(平仮名を読み、書いている)・才(身近なことを表す語句の量を増している)【主】これまでの学習や経験を生かしながら、進んで、音節と文字との関係に気づき、母音「あ」「い」「う」「え」「お」の付く言葉を集めようとしている。</p>	<p>・生活科の探検活動で見つけた物の中から、「あ」「い」「う」「え」「お」の付く言葉を探す。</p>
<p>ほんがたくさん 2時間(読2)／教：上 P.24・25</p> <p>自立心 思考力の芽生え 文字等への関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現</p>	<p>●読み聞かせを聞き、本を読むことへの関心をもつことができる。</p> <p>・幼稚園などで読み聞かせをしてもらったお話の中で、覚えているお話などを発表する。</p> <p>・いろいろな本の読み聞かせや紹介を聞いて、思ったことや分かったことを交流する。</p> <p>・学校図書館に行き、本棚を見て、気になる本を言い合ったり、実際に開いてみたりする。</p> <p>【知・技】(3)エ(易しい読み物の読み聞かせなどを聞き、読書に興味をもっている)【思・判・表】C(1)力(「読むこと」において、感じたことや分かったことを共有している)【主】これまでの学習や経験を生かしながら、進んで、読み聞かせなどを聞き、読書に興味をもって、本に親しもうとしている。</p>	<p>・生活科の学校探検で、学校で働く人を探し、学校司書の先生を見つけて話を聞く。</p> <p>・生活科の校庭探検の前に、春を題材にした絵本や図鑑などの読み聞かせをする。</p>

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
5	<p>あめですよ</p> <p>4時間(読4) 教科書:上巻 P.26~31</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉のリズムをとらえて声に出す。(1上「さあはじめよう」) 口形を意識して、明瞭な発音で音読する。(1上「あいうえおのうた」) 	<p>●絵と言葉を結び付けて、場面や人物の様子を思い浮かべ、語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけながら音読することができる。</p> <p>◇お話の内容や感想を伝え合ったり、演じたりする。C(2)イ</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1 雨に関する体験を想起し、全文の音読を聞いて、単元の学習課題をつかむ。 2 絵の人物や擬声語を比べ、様子を想像しながら音読する。 3 音読を発表して聞き合う。動作化したりみんなで読んだりして、音読を楽しむ。 4 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。C(1)イ ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。C(1)オ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに読み聞かせを聞いたり絵本を読んだりした経験を生かしながら、積極的に、絵と言葉を結び付けて内容の大体を捉え、声や動作で表現することを楽しもうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の時間に、雨の日の校庭の様子を観察する。
5	<p>ゝや°のつくじ</p> <p>3時間(知技3) 教科書:上巻 P.32・33</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一文字一音節の基本的な対応を動作化で表す。(1上「あいうえおのことばをあつめよう」) ・清音と濁音の音を比べながら、場面の様子を思い浮かべる。(1上「あめですよ」) 	<p>●清音、濁音、半濁音の表記と音の違いを理解して、読んだり書いたりすることができる。</p> <p>◇身の回りにある濁音や半濁音を含む語を集める。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1 教科書の言葉遊び歌を音読し、濁音や半濁音に関心をもち、単元の学習課題をつかむ。 2 清音の語と濁音・半濁音を含む語を比べて読んだり書いたりしながら、濁点や半濁点が付くことで発音や意味が異なることを理解する。 3 身の回りにある濁音・半濁音を含む語を集めて読んだり書いたりする。 4 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音節と文字との関係に気づくとともに、発声や発音に注意して話している。(1)イ ◎濁音や半濁音の表記を理解して、平仮名を読み、書いている。(1)ウ ・身近なことを表す語句の量を増している。(1)オ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことなどを生かしながら、工夫して、濁音と半濁音の表記を理解し、身の回りにある濁音や半濁音を含む語を集めようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の校内探検や季節探検で言葉見つけをする。
5	<p>ぶんをつくろう</p> <p>2時間(書2) 教科書:上巻 P.34・35</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <p>濁音や半濁音の表記を理解し、正しく読んだり書いたりする。(1上「ゝや°のつくじ」)</p>	<p>●主語と述語との関係を考えて、「○○が…する。」の文型で、意味が明確な文を作ることができる。</p> <p>◇写真をもとにした文を作る。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1 単元の学習課題をつかむ。教科書 P.34の文を声に出して、助詞「が」を使った文型を知り、視写する。 2 助詞「が」の働きを確かめ、教科書の写真を見て、「○○が…する。」の文を作って発表する。 3 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・句点の打ち方を理解して文の中で使っている。また、平仮名を読み、書いている。(1)ウ ◎文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことなどを生かしながら、積極的に、主語と述語との関係に気づこうとし、写真を基に助詞の「が」を使った文を作ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の校内探検や季節探検で見つけたものの動きを表す文を作る。 ・生活科の時間に、学校で働く人がしていることを文で伝える。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
5	<p>みんなにはなそう</p> <p>4時間(話聞4) 教科書:上巻 P.36～39</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はっきりとした発声・発音になるよう、口形を意識して話す。(1上「あいうえおのうた」) ・相手に聞こえる声の大きさを考えて話す。(1上「こえをとどけよう」) 	<p>●身の回りで見つけたものの中から紹介するものを決め、相手に聞こえるように話すことができる。</p> <p>◇紹介したいことを話したり、それを聞いて声に出して確かめたりする。A(2)ア</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1 教師の見つけたもののクイズに答えて、身の回りで見つけたものをクイズにして発表することに関心をもち、単元の学習課題をつかむ。 2 教科書の写真を手がかりにして、身の回りで見つけたものを思い浮かべ、クイズにして発表するものを決める。クイズの答えにするための絵をかく。 3 みんなの前でクイズを出したり、友達のクイズを聞いて答えたりする。 4 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。A(1)ア ◎「話すこと・聞くこと」において、相手に応じて、声の大きさを工夫している。A(1)ウ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことなどを生かしながら、積極的に、声の大きさを工夫して、紹介しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の時間に校庭で春探しをして見つけたものを伝え合う。 ・図工の時間に、校庭で見つけたものの絵を描いて鑑賞し合う。
5	<p>さとうとしお</p> <p>4時間(読4) 教科書:上巻 P.40～47</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <p>問いかけたり答えたりする。(1上「みんなにはなそう」)</p>	<p>●事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、自分の体験と結び付けて感想をもつことができる。</p> <p>◇説明的な文章を楽しんで読み、分かったことを伝え合う。C(2)ア</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1 砂糖と塩について知っていることを出し合い、教材文の題名を知り、単元の学習課題をつかむ。 2 全文を音読して、全体の問いを押さえる。観点ごとの「問い」を確かめ、その「答え」を探して、砂糖と塩の違いを読み取る。 3 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ ・敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。C(1)ア ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。C(1)オ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことなどを生かしながら、積極的に、事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉え、分かったことを伝え合おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食指導に活用する。
5	<p>はをつかおう</p> <p>1時間(書1) 教科書:上巻 P.48・49</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語と語との続き方に気をつけて文を作る。(1上「ぶんをつくろう」) ・助詞「は」を用いた説明的な文章を読む。(1上「さとうとしお」) 	<p>●助詞の「は」の使い方を理解して、一文の意味が明確になるように文を書くことができる。</p> <p>◇「は」と「わ」のどちらを書くのが正しいかを考えて文を作る。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1 単元の学習課題をつかむ。助詞「は」の使い方や表記を理解し、例文を視写する。 2 教科書P.49の練習題に取り組み、「は」と「わ」のどちらを使うのが正しいか選んで文を作り、視写する。 3 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎助詞の「は」の使い方を理解して文の中で使っている。また、平仮名を読み、書いている。(1)ウ ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、助詞の「は」の使い方を理解しようとし、正しく使って文を作ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の校内探検や季節探して見つけた人やものの様子を表す文を作って書くときに、「は」「わ」のどちらを使うのが正しいかを考える。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
5	<p>とんこととん</p> <p>5時間(読5)</p> <p>教科書:上巻 P.50～55</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <p>助詞「は」の使い方を理解する。(1上「はをつかおう」)</p>	<p>●場面の様子や人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。</p> <p>◇お話を読み、内容や感想などを伝え合ったり演じたりする。C(2)イ</p> <hr/> <p>1 題名からお話の内容を想像して興味をもち、単元の学習課題をつかむ。</p> <p>2 誰が出てきたかを確かめ、挿絵を並び替えて、物語の流れを捉える。</p> <p>3 人物が言ったことやしたことを確かめて気持ちを想像し、グループや学級で音読を楽しむ。</p> <p>4 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ</p> <p>・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク</p> <p>【思・判・表】</p> <p>◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。C(1)イ</p> <p>【主】</p> <p>・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かしながら、進んで、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、役割を決めて音読したり演じたりしようとしている。</p>	
6	<p>をへをつかおう</p> <p>2時間(書2)</p> <p>教科書:上巻 P.56・57</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <p>語と語との続き方に気をつけて文を作る。(1上「ぶんをつくらう」)</p>	<p>●助詞「を」「へ」の使い方を理解して、一文の意味が明確になるように文を書くことができる。</p> <p>◇「を」と「お」、「へ」と「え」のどちらを使うのが正しいかを考えて文を作る。</p> <hr/> <p>1 単元の学習課題をつかむ。</p> <p>2 例文「りんごをたべる。」「やまへいく。」を声に出し、助詞「を」「へ」の使い方や表記を知り、視写する。練習題に取り組み、「を」と「お」、「へ」と「え」のどちらを使うのが正しいか選んで文を作り、視写する。</p> <p>3 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <p>◎助詞の「を」及び「へ」の使い方を理解して文の中で使っている。また、平仮名を読み、書いている。(1)ウ</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ</p> <p>【主】</p> <p>・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、助詞の「を」及び「へ」の使い方を理解しようとし、正しく使って文を作ろうとしている。</p>	<p>・生活科の時間に学校で働く人のしていることを文で書くときに、「を」と「お」、「へ」と「え」のどちらを使うのが正しいかを考える。</p>
6	<p>きいてつたえよう</p> <p>3時間(話聞3)</p> <p>教科書:上巻 P.58・59</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <p>相手に聞こえる声の大きさを考えて話す。(1上「こえをとどけよう」)</p>	<p>●だいたいなことを落とさないように集中して聞き、グループの人に正しく伝えることができる。</p> <p>◇先生からポーズの指令を聞いて、グループのみんなに伝える。</p> <hr/> <p>1 単元の学習課題をつかむ。</p> <p>2 活動の進め方を知り、聞き方や伝え方について考える。</p> <p>3 教師から聞いた指令を正しく伝えて、グループのみんなでもポーズをとる。正しく聞き取るコツを考えて話し合い、繰り返す。</p> <p>4 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ</p> <p>【思・判・表】</p> <p>◎「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞いている。A(1)エ</p> <p>【主】</p> <p>・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かしながら、粘り強く、だいたいなことを落とさないように集中して聞き、先生からの指令どおりに、グループのみんなでもポーズをとろうとしている。</p>	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
6	ちいさいっ 3時間(知技3) 教科書:上巻 P.60・61 ----- 既習事項との関連 一文字一音節の基本的な対応を理解し、動作化する。(1上「あいうえおのことばをあつめよう」「や°のつくじ」)	●促音の表記と音節の対応を理解して、読んだり書いたりすることができる。 ◇身の回りにある促音を含む語を集める。 ----- 1 「ねこ」「ねっこ」を比べ、単元の学習課題をつかむ。 2 視覚化や動作化を使って、促音の音節と文字との対応を理解する。教科書 P.60・61 の言葉を動作化しながら読んだり書いたりする。 3 教科書の言葉遊び歌を動作化しながら読んだり書いたりする。身の回りにある促音を含む語を探して、動作化しながら読んだり、書いたりする。 4 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ・音節と文字との関係に気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ ◎促音の表記を理解して、平仮名を読み、書いている。(1)ウ ・身近なことを表す語句の量を増している。(1)オ 【主】 ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことなどを生かしながら、工夫して、促音の表記を理解し、身の回りにある促音を含む語を集めようとしている。	・生活科の時間に観察したことを書くとき、動作化をしながら促音の表記を確かめる。
6	ことばあそび 3時間(知技3) 教科書:上巻 P.62・63 ----- 既習事項との関連 ・濁音や半濁音の表記を理解して読み書きする。(1上「や°のつくじ」) ・促音の表記を理解して読み書きする。(1上「ちいさいっ」)	●言葉遊びに親しみながら、平仮名を読んだり書いたりすることができる。 ◇文字を使って言葉遊びをする。 ----- 1 これまでたくさんの平仮名を学習してきたことを振り返り、単元の学習課題をつかむ。 2 教科書のしりとりやことばみつけをしながら、その決まりを理解するとともに、平仮名の読み書きに習熟する。 3 しりとりやことばみつけの問題を作って出題し合って楽しむ。 4 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ・音節と文字との関係に気づいている。(1)イ ◎平仮名を読み、書いている。(1)ウ ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさ気づいている。(3)イ 【主】 ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、平仮名を読んだり書いたりして、文字を使った言葉遊びを楽しもうとしている。	
6	あひるのあくび 4時間(知技4) 教科書:上巻 P.64～67 ----- 既習事項との関連 母音の口形を確かめて、明瞭な発音・発声で話す。(1上「あいうえおのうた」)	●五十音図の特徴を理解して、平仮名を正しく読み、姿勢や口形、発声や発音に注意して声に出すことができる。 ◇詩を音読したり、五十音図を声に出したりする。 ----- 1 「あひるのあくび」を音読し、単元の学習課題をつかむ。 2 いろいろな音読の仕方を楽しみ、「あひるのあくび」の詩の仕組みを理解する。 3 教科書 P.66～67 の五十音を音読したり視写したりして、その特徴に気づく。 4 「あひるのあくび」をまねて詩を作る。 5 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ◎音節と文字との関係などに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ ・平仮名を読み、書いている。(1)ウ ・語句のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク 【主】 ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、音節と文字との関係などに気づこうとするとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して、詩を音読したり五十音図を声に出したりしようとしている。	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
6	<p>のぼすおん</p> <p>3時間(知技3) 教科書:上巻 P.68・69</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・促音を動作化して文字と音節の対応を理解して読み書きする。(1上「ちいさい」) ・五十音図の特徴を理解して、平仮名を正しく読み書きする。(1上「あひるのあくび」) 	<p>●長音の表記と音節の対応を理解して、読んだり書いたりすることができる。</p> <p>◇身の回りにある長音を含む語を集める。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1 「おばさん」と「おばあさん」を声に出して比べ、単元の学習課題をつかむ。 2 五十音表の特徴を想起したり、口形を手がかりにしたりして長音の文字と音節の対応の原則や例外を知る。長音の視覚化と動作化を知り、動作化しながら声に出す。 3 教科書の言葉遊び歌を動作化しながら音読したり書いたりする。身の回りの長音を含む語を探して、読んだり書いたりする。 4 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音節と文字との関係に気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ ◎長音の表記を理解して、平仮名を読み、書いている。(1)ウ ・身近なことを表す語句の量を増している。(1)オ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かしながら、工夫して、長音の表記を理解し、身の回りにある長音を含む語を集めようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の時間に、観察して見つけたことを記録するとき、動作化をしたり、伸ばして残る音を確かめたりして、表記を見直す。
6	<p>どうやってみをまもるのかな</p> <p>6時間(書2読4) 教科書:上巻 P.70～77</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事柄の順序などを考えながら読み、説明した文章の内容の大体を捉える。(1上「さとうしお」) 	<p>●事柄の順序を考えながら読み、文章の中の重要な語や文を選び出すことができる。</p> <p>◇説明的な文章を読み、分かったことをまとめる。C(2)ア</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1 ヤマアラシ、アルマジロ、スカンクの普通の姿の挿絵を見て、身の守り方を予想し、単元の学習課題をつかむ。 2 全文を音読して、教材文とてびきを区別するとともに、教材文のおおまかな構成を捉える。 3 教科書 P.77 の問いを手がかりにして、それぞれの動物の体の特徴と身の守り方を読み取り、予想と比べる。 4 いちばん気になる動物とその理由などを話し、感想を交流する。 5 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を選び出している。C(1)ウ ・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、文章の中の重要な語や文を選び出し、読んで分かったことをまとめようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科で観察した生き物について、絵本や図鑑などで調べ、説明文と似た文章を作ってみる。
6	<p>ちいさいやゆよ</p> <p>3時間(知技3) 教科書:上巻 P.78・79</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・促音の表記を理解して、読み書きする。(1上「ちいさい」) ・長音の表記を理解して、読み書きする。(1上「のぼすおん」) 	<p>●拗音、拗長音及び拗促音の表記と音節の対応を理解して、読んだり書いたりすることができる。</p> <p>◇身の回りにある拗音を含む語を集める。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1 「いしや」と「いしゃ」を声に出して比べ、単元の学習課題をつかむ。 2 拗音の視覚化と動作化を確かめるとともに、教科書 P.79 の三角の図を手がかりにして、拗音のイメージをつかむ。 3 これまで学習してきた特殊音節のルールを振り返り、拗長音と拗促音の発音と表記を理解する。 4 教科書の言葉遊び歌を動作化しながら読んだり書いたりする。身の回りの拗音を含む語を探して、読んだり書いたりする。 5 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音節と文字との関係に気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ ◎拗音、拗長音、拗促音の表記を理解して、平仮名を読み、書いている。(1)ウ ・身近なことを表す語句の量を増している。(1)オ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことなどを生かしながら、工夫して、拗音、拗長音及び拗促音の表記を理解し、身の回りにある拗音を含む語を集めようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の時間に、観察して見つけたことを記録するときなど、動作化をして、表記を確かめる。 ・生活科などの時間に、拗音を含む語が出る際、教師が口頭で伝え、児童が聴写する。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
6	<p>こんなことしたよ</p> <p>4時間(書4) 教科書:上巻 P.80～83</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 語と語との続き方に気をつけて文を作る。(1上「ぶんをつくろう」) 助詞「は」「へ」「を」の使い方を理解する。(1上「はをつかおう」「をへをつかおう」) 特殊音節と文字との対応を理解する。(1上「ちいさい」「のばすおん」「ちいさいやゆよ」) 	<p>●伝えたい内容が明確になるように、語と語や文と文との続き方に気をつけて、文章を書くことができる。</p> <p>◇経験したことを伝える文章を書く。B(2)ア</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 単元の学習課題をつかむ。 学校で経験したことの中から家の人に知らせたいことを選び、様子が伝わるように文章を書く。書き終わったら声に出して読み返す。 書いた文章を読み合い、よいところを見つけて伝え合う。 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ 身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。(1)オ <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけている。B(1)ア ◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意している。B(1)ウ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことなどを生かしながら、粘り強く、語と語や文と文との続き方に注意して、経験したことを伝える文章を書こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活科で観察して見つけたことを記録する。
7	<p>おおきななぶ</p> <p>6時間(話聞1読5) 教科書:上巻 P.84～95</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <p>語や文のまとまりに気をつけて音読しながら、様子を思い浮かべてお話を楽しむ。(1上「とんこととん」)</p>	<p>●場面の様子の違いに着目して読み、人物の行動を具体的に想像することができる。</p> <p>◇お話を読み、内容を伝え合ったり音読したりする。C(2)イ</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 全文の範読を聞き、自分でも音読して、音読発表会を開くことを知り、単元の学習課題をつかむ。 話の順序を確かめる。 大きななぶができたときのおじいさんの気持ちや様子を想像する。五か所の「ぬけません。」とその前につく言葉や、繰り返される「うんとこしょ、どっこいしょ。」の違いに着目して想像を広げる。 グループで音読の練習をする。 グループで音読発表を行う。 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。C(1)エ 「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。A(1)ウ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、場面の様子に着目して人物の行動を具体的に想像し、音読して伝え合おうとしている。 	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
7	かぞえうた 5時間(知技5) 教科書:上巻 P.96～99	●物の数え方に関わる語彙を豊かにするとともに、漢数字を読んだり書いたりすることができる。 ◇「かぞえうた」を音読したり、身の回りの物を数えたりする。 ----- 1 教科書 P.96・97 の挿絵に描かれている物の数を数えて、助数詞に関心をもつ。「かぞえうた」を音読して、単元の学習課題をつかむ。 2 漢数字「一」「二」「三」の書き方や読み方を知り、「かぞえうた」の型をまねて学級で「一」「二」「三」の「かぞえうた」を作る。 3 漢数字「四」～「十」の書き方や読み方を知り、好きな行(数)を選んで「かぞえうた」を作り、紹介し合う。 4 自分が作った行と、学級で作った行や友達が作った行をつないで「一」～「十」の「かぞえうた」を完成させて音読する。 5 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ・別表の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書いている。(1)エ ◎身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ。 【主】 ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、物の数え方についての語句の量を増し、数詞や漢数字を用いて身の回りの物を数えようとしている。	・生活科の時間に観察をして数を数えるとき、どんな数詞を使うか考える。 ・算数の授業で学習した算用数字と照合させ、基本的には横書きの際には算用数字、縦書きの際には漢数字を使用することを学ばせる。
7	えにつきをかこう 4時間(書4) 教科書:上巻 P.100～103 ----- 既習事項との関連 ・語と語との続き方に気をつけて文を作る。(1上「ぶんをつくろう」「こんなことしたよ」) ・助詞「は」「へ」「を」の使い方を理解する。(1上「はをつかおう」「ををつかおう」) ・特殊音節と文字との対応を理解する。(1上「ちいさい」「のばすおん」「ちいさいやゆよ」) ・漢数字の読み方や書き方を知る。(1上「かぞえうた」)	●経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を考えて文章を書くことができる。 ◇日々の出来事について、伝えたいことを絵日記に書く。B(2)イ ----- 1 体験したことを絵と文章で絵日記にかき、みんなで読み合うことに意欲をもち、単元の学習課題をつかむ。 2 教科書の例を読んで、絵日記に書く要素を知り、その日にあった出来事を思い出して、絵日記に書く題材を探す。国語の授業が、午前中(早い時間帯)の場合は、前日の出来事を振り返ってもよいことにする。 3 書くことを決めて絵を描き、文章を書く。書き終えたら声に出して読み返す。 4 友達と読み合い、よいところを伝え合う。 5 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(1)ア ・学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【思・判・表】 ◎「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意している。B(1)ウ 【主】 ・これまでの学習で気づいたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、書くことを見つけて必要な事柄を集め、伝えたいことを明確にして、絵日記を書こうとしている。	・図工の時間に、行事を思い出して心に残ったことを絵に描き、文章を添える。
7	としょかんはどんなところ 1時間(知技1) 教科書:上巻 P.104・105 ----- 既習事項との関連 読み聞かせを聞いたり、図書館の本棚を見たりして、本に関心を持つ。(1上「ほんがたくさん」)	●学校図書館を利用して、読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。 ◇学校図書館を利用する。 ----- 1 学校図書館について知っていることを出し合い、単元の学習課題をつかむ。 2 学校図書館に行って本棚などを見て回り、知っていることや気づいたことなどを出し合う。使い方や過ごし方を考えてルールを知る。 3 読みたい本を探して学校図書館で読む。 4 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ 【主】 ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、読書に親しみ、学校図書館を利用していろいろな本を読もうとしている。	・生活科の時間に、観察した植物や生き物について知るために、みんなで学校図書館に行き、図鑑や絵本を探して読む。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
9	<p>あるけあるけ おおきなあれ</p> <p>3時間(読3) 教科書:上巻 P.106～109</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 語のまとまりに気をつけて、様子を思い浮かべながらリズムよく音読する。(1上「あめですよ」) 明瞭な発音に気をつけながら言葉のリズムを楽しんで音読する。(1上「あひるのあくび」) 	<p>●内容の大体を捉えて場面の様子を思い浮かべ、語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけながら音読することができる。</p> <p>◇詩を音読する。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 二つの詩の範読を聞き、単元の学習課題をつかむ。 詩「あるけあるけ」を音読する。繰り返しや比喻表現を楽しみ、動作化などを取り入れて工夫して音読する。 詩「おおきなあれ」を音読する。繰り返しの表現を楽しみ、語り手の願いに共感しながら音読する。 2つの詩から好きなほうを選び、グループで練習をして、音読を発表する。 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎「読むこと」において、場面の様子など、内容の大体を捉えている。C(1)イ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習で気づいたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、進んで、場面の様子など、内容の大体を捉えて、詩を音読しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 遠足のとき、「あるけあるけ」をみんなで声に出しながら歩く。 雨の日に、学校の畑の果物を想像しながら、「おおきなあれ」をみんなで声に出す。
9	<p>はなしたいなききたいな</p> <p>5時間(話聞5) 教科書:上巻 P.110～113</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手や場に応じた声の大きさを考える。(1上「こえをとどけよう」) 発表することを決めて、みんなの前で話す。(1上「みんなにはなそう」) 経験したことから伝えたいことを決めて文章を書く。(1上「こんなことしたよ」「えにっきをかこう」) 	<p>●経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んで話したり、話を集中して聞き、感想をもったりすることができる。</p> <p>◇報告したいことをみんなの前で話したり、友達の話聞いて感想を述べたりする。A(2)ア</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 夏休みの思い出についての教師のスピーチを聞いて、単元の学習課題をつかむ。 みんなに話したい思い出を選んで、話を組み立てる。教科書の例や教師のスピーチの組み立てをまねて、組み立てを考える。 二人一組になって、話す練習を聞き合う。 「夏休みの思い出発表会」を開き、グループの中で発表する。グループを変えて発表会を繰り返す。聞き手は感想を述べたり質問したりする。 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。(1)キ <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎「話すこと・聞くこと」において、経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。A(1)ア 「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさを工夫している。A(1)ウ 「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。A(1)エ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習で気づいたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んで、経験したことを報告しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の後に、それぞれの思い出を発表し合う。 生活科で、「季節さがし」をして見つけたことについてみんなの前で発表する。
9	<p>かいがら</p> <p>6時間(話聞1読5) 教科書:上巻 P.114～121</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <p>人物の行動を具体的に想像して、音読する。(1上「おおきなかぶ」)</p>	<p>●場面の様子に着目して、人物の行動を具体的に想像することができる。</p> <p>◇お話を読み、人物になったつもりで会話をする。C(2)イ</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 全文の範読を聞いて内容の大体を捉え、単元の学習課題をつかむ。 1日目と2日目の出来事を読み取り、感想を伝え合う。様子を表す言葉や会話から、登場人物の気持ちを想像する。自分だったらどんな気持ちになるか考えてみる。 最後の場面での登場人物の気持ちを想像する。登場人物になったつもりで気持ちを伝え合い、感想を交流する。 好きな本を選んで読み聞かせをしてもらったり、好きなところを紹介したりする。 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 語のまとまりに気をつけて音読している。(1)ク <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。C(1)エ 「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。A(1)オ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習で気づいたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像して、登場人物になったつもりで演じようとしている。 	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
9	<p>ことばあそびうたをつくらう</p> <p>6時間(書6) 教科書:上巻 P.122～125</p> <hr/> <p>既習事項との関連 言葉の響きやリズムを楽しみながら詩を音読する。(1上「あるけあるけ／おおきなあれ」)</p>	<p>●身の回りのものから書くものを見つけ、それに関わる音や様子を表す言葉を集めたり確かめたりして、言葉遊び歌を作ることができる。</p> <p>◇言葉遊び歌をみんなで作る。B(2)ウ</p> <hr/> <p>1 詩「たべもの」を音読し、単元の学習課題をつかむ。</p> <p>2 身の回りのいろいろなものの音や様子を思い浮かべて、擬声語・擬態語で表してみる。</p> <p>3 一人一行ずつ作り、グループでつないで、自分たちの「ことばあそびうた」を作る。</p> <p>4 「ことばあそびうた」発表会を開く。</p> <p>5 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。(1)オ ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク</p> <p>【思・判・表】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。B(1)ア ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合っている。B(1)オ</p> <p>【主】 ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、必要な事柄を集めたり確かめたりして、言葉遊び歌を作ろうとしている。</p>	<p>・生活科の時間に動物や植物と触れ合い、感じた様子や聞いた音を擬態語や擬声語で表してみる。</p>
9	<p>かんじのはなし</p> <p>5時間(書2読3) 教科書:上巻 P.126～129</p> <hr/> <p>既習事項との関連 漢数字の読み方や書き方を知る。(1上「かぞえうた」)</p>	<p>●漢字の成り立ちや意味を考えながら、第1学年に配当されている漢字を読んだり書いたりすることができる。</p> <p>◇漢字を使って文を作る。</p> <hr/> <p>1 教科書 P.129 を見て、単元の学習課題をつかむ。</p> <p>2 「かんじのはなし」を読んで、漢字七字の成り立ちを知り、正しく書く。</p> <p>3 教科書 P.129 の絵の部分を漢字に書き換える。学習した漢字を使った文を考える。</p> <p>4 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ◎学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文の中で使っている。(1)エ</p> <p>【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。C(1)ア</p> <p>【主】 ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かしながら、進んで、学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文の中で使おうとしている。</p>	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
9	おはなしをよもう サラダでげんき 10時間(読6書4) 教科書:下巻 P.5～19 【言葉の力】 だれがどんなことをしたかを たしかめる	●場面の様子や人物の行動など、内容の大体を捉え、文章の内容と自分の体験を結び付けて、感想を持つことができる。 ◇お話を読み、感じたことを伝え合う。C(2)イ つかむ 1 単元の学習の見通しをもつ。 取り組む 2 物語の中で起こった出来事をつかむ。 3 りっちゃんに教えたいことを考えて手紙を書き、交流する。 振り返る 4 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ・平仮名及び片仮名を読み、書いている。(1)ウ ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア 【思・判・表】 ◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。C(1)イ ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験を結び付けて、感想をもっている。C(1)オ ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意している。B(1)ウ 【主】 ・これまでの学習で気づいたことやできるようになったことを生かして見通しを持ち、進んで、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えて、感想を伝え合おうとしている。	
10	かたかなをかこう 3時間(知技3) 教科書:下巻 P.20～23	●片仮名の表記を理解し、正しく読み書きすることができる。 ◇片仮名で書かれた言葉を集めて正しく書く。 1 片仮名の書き方を知るという学習課題をつかむ。 2 片仮名の書き方を知り、書く練習をする。 3 身近なものの中から片仮名で書かれた言葉を集めて、交流する。 4 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ◎片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文の中で使っている。(1)ウ ・身近なことを表す語句の量を増している。(1)オ 【主】 ・これまでの学習で気づいたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、片仮名を読んだり書いたりし、身近なものの中から片仮名で書かれている言葉を集めようとしている。	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
10	ほんはともだち 2時間(知技2) 教科書:下巻 P.24~29	●いろいろな本を読み、読書に親しむことができる。 ----- 1 読みたい本を探して読むという単元の学習の見通しをもち、読書体験文の読み聞かせを聞く。 2 「一ねんせいのはんだな」を手がかりにして、読みたい本を探して読む。 3 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ 【主】 ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かしながら、進んで、いろいろな本を読み、読書に親しもうとしている。	
10	なにに見えるかな 6時間(話聞6) 教科書:下巻 P.30~35 【言葉の力】 はなしをたのしくつなぐ	●互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて楽しく話をつなぐことができる。 ◇尋ねたり応答するなどして、グループで話し合う。A(2)イ <u>つかむ</u> 1 単元の学習の見通しをもつ。 <u>取り組む</u> 2 写真を見て想像を広げながら、話すことを考える。 3 楽しく話をつなぐために大切なことをつかむ。 4 写真を見て考えたことについて話し合う。 <u>振り返る</u> 5 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ 【思・判・表】 ◎「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいる。A(1)オ 【主】 ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、工夫しながら、互いの話に関心を持って話をつなごうとし、グループで話し合おうとしている。	・図工の時間に、落葉や木の実を使って作った絵について感想を伝え合う。 ・生活科の時間に、秋見つけをして気づいたことを伝え合う。
10	よう日と日づけ 3時間(書3) 教科書:下巻 P.36・37	●曜日と日付を表す語句の量を増し、漢字を使って正しく読み書きすることができる。 ◇予定を伝える文を作る。 ----- 1 曜日と日付を表す言葉や漢字を使った書き方を知るという学習課題をつかむ。 2 曜日と日付を表す言葉を理解し、漢字を使って正しく読み書きする。 3 日付と曜日を使って、予定を伝える文を書く。 4 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ・学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ ◎身近なことを表す語句の量を増すとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ 【主】 ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、曜日や日付を表す語句の量を増し、予定を伝える文の中で使おうとしている。	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
10	<p>はっけんしたよ</p> <p>8時間(書8) 教科書:下巻 P.38～42</p> <p>【言葉の力】 よく見てかく</p> <p>-----</p> <p>【既習事項との関連】 したこと、見たことを文章に書く。(1上「えにつきをかこう」)</p>	<p>●観察した動植物の様子を伝えるために必要な事柄を集め、伝えたいことを明確にして書くことができる。</p> <p>◇観察したことを記録する。B(2)ア</p> <p>-----</p> <p>【つかむ】</p> <p>1 これまでの経験を想起し、単元の学習の見通しをもつ。</p> <p>【取り組む】</p> <p>2 気づいたことを記録するための「はっけんメモ」を書く。</p> <p>3 「はっけんメモ」をもとに、観察した動植物の様子を伝える文章を書く。</p> <p>4 文章を読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>【振り返る】</p> <p>5 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を書いている。(1)ウ ・身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ <p>【思・判・表】</p> <p>◎「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。B(1)イ ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。B(1)ウ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かして、しなければならないことを自覚し、粘り強く、伝えるために必要な事柄を集めたり確かめたりして、観察したことを記録し、報告する文章を書こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の時間に、身近な動植物を観察して、気づいたことを記録する。
10	<p>のりもののことをしらべよう</p> <p>いろいろなふね</p> <p>13時間(読7書6) 教科書:下巻 P.43～53</p> <p>【言葉の力】 せつめいの文しょうをよむ</p> <p>-----</p> <p>【既習事項との関連】 事柄の順序を考えながら読み、文章の中の重要な語や文を選び出して書く。(1上「どうやってみをまもるのかな」)</p>	<p>●事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。</p> <p>◇説明的な文章を読み、分かったことをまとめて伝え合う。C(2)ウ</p> <p>-----</p> <p>【つかむ】</p> <p>1 乗り物のことを調べてカードに書くという学習課題を確かめて、単元の学習の見通しをもつ。</p> <p>【取り組む】</p> <p>2 「いろいろなふね」を読み、読み取ったことをカードにまとめる。</p> <p>3 他の乗り物のことを調べて、カードに書く。</p> <p>4 調べたことをまとめたカードを紹介する。</p> <p>【振り返る】</p> <p>5 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。C(1)ア ◎「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。C(1)ウ ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように、書き表し方を工夫している。B(1)ウ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、読んで分かったことをまとめて伝え合おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の時間に、生き物や植物について調べる。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
11	<p>まとめてよぶことば</p> <p>3時間(書3)</p> <p>教科書:下巻 P.54・55</p>	<p>●言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、上位語と下位語を理解して、語彙を豊かにすることができる。</p> <p>◇上位語と下位語を使って文を作る。</p> <hr/> <p>1 同じ仲間の言葉をまとめて呼ぶ言葉について知るとい学習課題をつかむ。</p> <p>2 仲間になる言葉やまとめて呼ぶ言葉を集めたり分類したりする。</p> <p>3 まとめて呼ぶ言葉と仲間になる言葉を使った短文を作り、概念の違いを捉える。</p> <p>4 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <p>◎身近なことを表す語句の量を増すとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ</p> <p>【主】</p> <p>・これまでの学習で気づいたことやできるようになったことを生かしながら、粘り強く、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づいて語彙を豊かにし、上位語と下位語を使って文を作ろうとしている。</p>	
11	<p>すきなきょうかはなあに</p> <p>5時間(話聞4書1)</p> <p>教科書:下巻 P.56～59</p> <p>【言葉の力】</p> <p>じゅんじょよくはなす</p>	<p>●相手に伝わるように、話す事柄の順序を考え、声の大きさや速さなどを工夫して話することができる。</p> <p>◇伝えたいことを話したり、それを聞いて感想を述べたりする。A(2)ア</p> <hr/> <p>つかむ</p> <p>1 これまでの経験を振り返り、単元の学習の見通しをもつ。</p> <p>取り組む</p> <p>2 好きな教科について考え、話すことをメモに書く。</p> <p>3 話す練習をする。</p> <p>4 みんなの前で話す。</p> <p>振り返る</p> <p>5 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(1)ア</p> <p>・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア</p> <p>【思・判・表】</p> <p>◎「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、話す事柄の順序を考えている。A(1)イ</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。A(1)ウ</p> <p>・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ</p> <p>【主】</p> <p>・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、相手に伝わるように、話す事柄の順序を考え、みんなの前で説明しようとしている。</p>	<p>・朝の会で、日直がスピーチをする。</p> <p>・生活科の時間に発表する。</p>
11	<p>ことばであそぼう</p> <p>3時間(知技3)</p> <p>教科書:下巻 P.60・61</p> <p>【既習事項との関連】</p> <p>語彙を豊かにするとともに、平仮名の読み書きに習熟する。(1上「ことばあそび」)</p>	<p>●言葉遊びを通して言葉の豊かさに気づくことができる。</p> <p>◇回文やだじゃれを読んだり作ったりする。</p> <hr/> <p>1 これまでに経験した言葉遊びを振り返り、単元の学習の見通しをもつ。</p> <p>2 「さかさによんでも」(回文)で遊ぶ。</p> <p>3 「だじゃれ」で遊ぶ。</p> <p>4 「わたしはだあれ」で遊ぶ。</p> <p>5 言葉遊びの面白さについて振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <p>◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ</p> <p>【主】</p> <p>・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かしながら、長く親しまれている言葉遊びを通して、積極的に、言葉の豊かさに気づこうとしている。</p>	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
11	<p>おもい出してかこう</p> <p>9時間(書9) 教科書:下巻 P.62～66</p> <p>【言葉の力】 じゅんじょにきをつけてかく</p> <hr/> <p>【既習事項との関連】 順序よく話す。(1下「すきな きょうかはななあに」)</p>	<p>●経験した順序に沿って簡単な構成を考え、 語と語や文と文との続き方に注意しながら 書くことができる。 ◇経験したことを報告する。B(2)ア</p> <hr/> <p>【つかむ】 1 これまでの学習や生活経験を想起し、単 元の学習の見通しをもつ。</p> <p>【取り組む】 2 分かりやすく伝えるために、何をどのよう に書けばよいかを考える。 3 書く事柄の順序を考え、文章を書く。 4 文章を読み合い、交流する。</p> <p>【振り返る】 5 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ・かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章 の中で使っている。(1)ウ ・事柄の順序など情報と情報との関係に ついて理解している。(2)ア</p> <p>【思・判・表】 ◎「書くこと」において、自分の思いや考 えが明確になるように、事柄の順序に 沿って簡単な構成を考えている。B(1)イ ・「書くこと」において、語と語や文と文と の続き方に注意しながら、内容のまと まりが分かるように書き表し方を工夫して いる。B(1)ウ ・「書くこと」において、文章を読み返す 習慣を付けるとともに、間違いを正したり、 語と語や文と文との続き方を確かめ ている。B(1)エ</p> <p>【主】 ・これまでの学習や経験で気づいたこと やできるようになったことを生かして見 通しをもち、進んで、事柄の順序に沿っ て簡単な構成を考え、経験したことを報 告しようとしている。</p>	<p>・他教科等の学 習や学校行事 での経験を友 達や家の人に 伝える。</p>
11	<p>こえに出してよもう おとうとねずみチロ</p> <p>12時間(読9話聞3) 教科書:下巻 P.67～81</p> <p>【言葉の力】 人ぶつの気持ちをかんがえる</p> <hr/> <p>【既習事項との関連】 だれがどんなことをしたかを 確かめる。(1下「サラダでげ んき」)</p>	<p>●場面の様子に着目して、人物の行動を具体 的に想像し、自分の体験と結び付けて感想 を持つことができる。 ◇お話を読み、内容や感想を伝え合ったり、演 じたりする。C(2)イ</p> <hr/> <p>【つかむ】 1 単元の学習の見通しをもつ。</p> <p>【取り組む】 2 人物の行動や、物語の中で起こった出来 事確かめる。 3 チロの様子や気持ちを想像して、物語を 音読する。</p> <p>【振り返る】 4 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話 の中で使うとともに、言葉には意味によ る語句のまとまりがあることに気づき、語 彙を豊かにしている。(1)オ ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつ けて音読している。(1)ク</p> <p>【思・判・表】 ◎「読むこと」において、場面の様子に着 目して、登場人物の行動を具体的に想 像している。C(1)エ ・「読むこと」において、文章の内容と自 分の体験とを結び付けて、感想を持っ ている。C(1)オ ・「話すこと・聞くこと」において、互いの 話に関心をもち、相手の発言を受けて 話をつないでいる。A(1)オ</p> <p>【主】 ・これまでの学習や経験で気づいたこと やできるようになったことを生かして学 習の見通しをもち、積極的に、人物の 行動を具体的に想像し、お話の内容や 感想を伝え合ったり演じたりしようとして いる。</p>	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
12	<p>すきなおはなしはなにか な</p> <p>7時間(読4書3) 教科書:下巻 P.82～85</p> <p>【言葉の力】 おはなしをたのしむ</p> <p>-----</p> <p>【既習事項との関連】 物語に登場する人物について理解する。(1下「おとうとねずみチロ」)</p>	<p>●読書に親しみ、好きな物語を読んで感じたことを共有することができる。</p> <p>◇読み聞かせを聞いたりお話を读んだりして、内容や感想を伝え合う。C(2)イ</p> <p>-----</p> <p>【つかむ】</p> <p>1 これまでに読んだ本を振り返り、単元の見直しをもつ。</p> <p>【取り組む】</p> <p>2 友達に伝えたい好きなお話や人物を決める。</p> <p>3 「しょうかいカード」を書く。</p> <p>4 好きな物語や好きな人物について紹介し合う。</p> <p>【振り返る】</p> <p>5 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ</p> <p>【思・判・表】</p> <p>◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことを共有している。C(1)カ</p> <p>・「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア</p> <p>【主】</p> <p>・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かして見直しをもち、積極的に読書に親しみ、好きな物語を読んで感じたことを共有しようとしている。</p>	<p>・生活の中の読書に生かす。</p>
1	<p>しをよもう みみずのたいそう</p> <p>2時間(読2) 教科書:下巻 P.86・87</p> <p>-----</p> <p>【既習事項との関連】 場面の様子を想像して、言葉の響きやリズムを感じながら音読する。(1上「あるけあるけ／おおきくなあれ」)</p>	<p>●詩の内容の大体を捉えて、語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。</p> <p>◇詩を読んで、内容や感想を伝え合ったり演じたりする。C(2)イ</p> <p>-----</p> <p>1 単元の学習の見直しをもつ。</p> <p>2 様子を想像して読み、好きなところや読んだ感想を発表し合う。</p> <p>3 全員で読んだり友達と交代して読んだりするなど読み方を工夫して、詩を楽しむ。</p> <p>4 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク</p> <p>【思・判・表】</p> <p>◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。C(1)イ</p> <p>【主】</p> <p>・これまでの学習や経験で気づいたことや考えたことを生かして見直しを持ち、積極的に、場面の様子など、内容の大体を捉えて、感想を伝え合ったり演じたりしようとしている。</p>	
1	<p>むかしばなしをたのしもう</p> <p>6時間(読6) 教科書:下巻 P.88～91</p>	<p>●読み聞かせを聞くなどして、昔話に親しみ、おもしろいと思ったところを共有することができる。</p> <p>◇読み聞かせを聞いたり自分で読んだりして、内容や感想を伝え合う。C(2)イ</p> <p>-----</p> <p>1 単元の学習課題をつかむ。</p> <p>2 付録教材「花さかじいさん」などの読み聞かせを聞いて、昔話の独特な語り口調や展開などを楽しむ。</p> <p>3 興味を持った昔話の本を探して、読み聞かせを聞いたり自分で読んだりする。</p> <p>4 これまでに読んだ昔話の中からおもしろかったものを選んで、「しょうかいカード」を書く。</p> <p>5 物語の好きなところを紹介し合う。</p> <p>6 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <p>◎昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。(3)ア</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。C(1)カ</p> <p>【主】</p> <p>・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しみ、色々な昔話の内容や感想を伝え合おうとしている。</p>	<p>・朝の会で、児童が選んだ昔話の絵本を取り上げて、読み聞かせをする。</p>

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
1	<p>おはなしをかこう</p> <p>9時間(書9) 教科書:下巻 P.92～97</p> <p>【言葉の力】 人ぶつをかながえておはなしをか</p> <p>-----</p> <p>【既習事項との関連】 昔話を楽しむ。(1下「むかしばなしをたのしもう」)</p>	<p>●想像したことから書くことを見つけ、登場する人物について考え、その人物がどんなことをするのかを明確にして、簡単なお話を書くことができる。</p> <p>◇昔話をもとに、簡単なお話を作る。B(2)ウ</p> <p>-----</p> <p>【つかむ】 1 これまでの学習を振り返り、単元の学習の見通しをもつ。</p> <p>【取り組む】 2 中心となる人物を決め、どんな人物かを考えてメモを書く。 3 メモをもとに物語を書く。 4 物語を友達と読み合い、交流する。</p> <p>【振り返る】 5 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使っている。(1)ウ ・学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(1)エ</p> <p>【思・判・表】 ◎「書くこと」において、想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。B(1)ウ ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。B(1)オ</p> <p>【主】 ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、工夫しながら、想像したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、昔話をもとに簡単なお話を作ろうとしている。</p>	<p>・音楽科で、発想を生かした表現をしたり、図工の時間に感じたこと、想像したことから、表したいことを見つけたりする。</p>
1	<p>かたかなのかたち</p> <p>3時間(知技3) 教科書:下巻 P.98～100</p> <p>-----</p> <p>【既習事項との関連】 片仮名の表記を理解し、正しく読み書きする。(1下「かたかなをかこう」)</p>	<p>●平仮名の字形との違いに気をつけながら、片仮名の言葉を書き、文の中で使うことができる。</p> <p>◇平仮名と似ている片仮名を集める。</p> <p>-----</p> <p>1 学習課題をつかみ、学習の見通しをもつ。 2 平仮名と似ている片仮名を探して書く。 3 似ている片仮名を集めて、文を作る。 4 どのようなことに注意すればよいか振り返り、字形に気をつけて書くことを今後に生かす。</p>	<p>【知・技】 ◎平仮名や片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文の中で使っている。(1)ウ ・身近なことを表す語句の量を増している。(1)オ</p> <p>【主】 ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、平仮名や片仮名を読んだり書いたりして、平仮名と似ている片仮名を集めようとしている。</p>	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
1	<p>くらべてよもう 子どもをまもろうぶつたち</p> <p>14時間(読9書5) 教科書:下巻 P.101～111</p> <p>【言葉の力】 くらべてかんがえる</p> <p>-----</p> <p>既習事項との関連 説明の文章を読む。(1下「いろいろなふね」)</p>	<p>●二つの動物の説明を比べて読み、似ているところや違うところを見つけて共有することができる。</p> <p>◇説明的な文章を読み、分かったことを伝え合う。C(2)ア</p> <p>-----</p> <p>つかむ 1 単元の学習の見通しをもつ。</p> <p>取り組む 2 二つの動物について、書かれていることを読み取る。 3 二つの動物を比較し、特徴、子どもの身の守り方を違いについて表にまとめる。 4 二つの動物を比べて、気づいたことを交流する。 5 ほかの動物の知恵や生活について、本で調べる。</p> <p>振り返る 6 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア</p> <p>【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。C(1)ウ ◎「読むこと」において、文章を読んで分かったことを共有している。C(1)カ ・「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア</p> <p>【主】 ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、文章を読んで分かったことを共有し、伝え合おうとしている。</p>	<p>・生活科での調べ学習に生かす。 ・情報を比べて考える。(情報活用能力)</p>
2	<p>ことばをあつめよう</p> <p>3時間(書3) 教科書:下巻 P.112・113</p> <p>-----</p> <p>既習事項との関連 助詞「へ」「を」の使い方を理解する。(1上「をへをつかおう」)</p>	<p>●身近なことを表す語句を集め、文の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づいて、語彙を豊かにすることができる。</p> <p>◇集めた言葉をつないで文を作る。</p> <p>-----</p> <p>1 学習課題をつかみ、学習の見通しをもつ。 2 教科書の言葉をつなげて文を作る。 3 言葉を集めて、文を作る。 4 作った文を発表し、単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ◎身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ</p> <p>【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ</p> <p>【主】 ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、身近なことを表す語句の量を増し、集めた言葉をつないで文を作ろうとしている。</p>	
2	<p>小学校のことをしょうかいしよう</p> <p>6時間(話聞5書1) 教科書:下巻 P.114～118</p> <p>【言葉の力】 できごとのじゅんにはなす</p>	<p>●来年度の新入生に、小学校生活を楽しまししてもらえるように、経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えて話すことができる。</p> <p>◇紹介したいことを話す。A(2)ア</p> <p>-----</p> <p>つかむ 1 これまでの経験を振り返り、単元の学習の見通しをもつ。</p> <p>取り組む 2 どんなことをどんな順序で話すとよいかを考える。 3 小学校について紹介することを決める。 4 話す練習をする。 5 来年度の新入生に伝わるように話す。</p> <p>振り返る 6 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(1)ア ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア</p> <p>【思・判・表】 ◎「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。A(1)イ ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。A(1)ウ ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意している。B(1)ウ</p> <p>【主】 ・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、工夫しながら、経験したことに基づいて話す事柄の順序を考え、紹介したいことを話そうとしている。</p>	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元の目標／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
2	<p>すきなところを見つけよう スイミー</p> <p>12時間(読10話聞2) 教科書:下巻 P.119～135</p> <p>【言葉の力】 おはなしのすきなところを見つける</p>	<p>●人物の行動を具体的に想像して、自分の体験と結び付け、お話の好きなところを見つけることができる。</p> <p>◇お話の好きなところを伝え合ったり演じたりする。C(2)イ</p> <hr/> <p>つかむ</p> <p>1 単元の学習の見通しをもつ。</p> <p>取り組む</p> <p>2 スイミーの行動や会話などを手がかりに、場面の様子を想像しながら読む。</p> <p>3 物語の中で好きなところを見つけて、音読の練習をする。</p> <p>4 物語の中で好きなところを音読し、聞き合う。</p> <p>振り返る</p> <p>5 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。C(1)エ</p> <p>◎「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。C(1)オ</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。A(1)ウ</p> <p>【主】</p> <p>・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、お話の好きなところを伝え合ったり演じたりしようとしている。</p>	
3	<p>かたちのにているかん字</p> <p>3時間(書3)</p> <p>教科書:下巻 P.136・137</p>	<p>●字形の似た漢字を区別し、正しく読み書きすることができる。</p> <p>◇形の似た漢字を集める。</p> <hr/> <p>1 形の似た漢字を正しく使い分けるという学習課題をつかむ。</p> <p>2 形の似た漢字を探し、ちがうところを見つける。</p> <p>3 既習の漢字の中から形の似ているものを探して、短文を作る。</p> <p>4 「漢字間違いクイズ」を作って出し合い、学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <p>◎学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文の中で使っている。(1)エ</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ</p> <p>【主】</p> <p>・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、形の似ている漢字を集めようとしている。</p>	
3	<p>一年かんをふりかえろう</p> <p>8時間(書8)</p> <p>教科書:下巻 P.138～141</p> <p>【ことばの力】 かいた文しょうをよみかえす</p>	<p>●これまでに書いた文章から一つ選んで書き直し、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることができる。</p> <p>◇一年間を振り返り、いちばん心に残っている出来事を報告する文章を書く。B(2)ア</p> <hr/> <p>つかむ</p> <p>1 これまでの学習を振り返り、単元の学習の見通しをもつ。</p> <p>取り組む</p> <p>2 1年間で書いた文章を読み返し、家の人に伝える出来事を決める。</p> <p>3 出来事を伝える文章を書く。</p> <p>4 書いた文章を読み合う。</p> <p>振り返る</p> <p>5 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。(1)キ</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア</p> <p>・「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。B(1)エ</p> <p>◎「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。B(1)オ</p> <p>【主】</p> <p>・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけ、いちばん心に残っている出来事を報告する文章を書こうとしている。</p>	<p>・生活科の時間に、一年間を振り返ってできるようになったことを確かめたり、2年生になってがんばりたいことを考えたりする。</p>